

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和元年11月21日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4675200226
法人名	有限会社 文月会
事業所名	グループホーム ころろ
所在地	鹿児島県始良市加治木町西別府2820番地3 (電話) 0995-63-6300
自己評価作成日	令和元年10月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市壱ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和元年10月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・認知症で苦しむ方々が孤独を感じることなく安心して生活し、自らがどのように生活していきたいのか、誰といることに自分の存在を感じることができるのかを自ら判断できる様に援助していただけるような事業所でありたい。その為には、介護職員全員が援助技術の向上を目指していきたい。

・自然が多く、静かな環境で、ゆったりとした時間を感じることができる。利用者個々の生活スタイルを尊重し、介護者側の都合に流されることなく利用者自身が続けてきた日常生活が継続できる様、援助していきたい。

・看取り介護に力を入れている。最後までご家族や主治医、介護職員、訪問看護師等本人を取り巻く人達と十分に説明を受け、本人を含め判断をし、コミュニケーションを深めながら過ごすことができる環境になりたい。また、ご家族が十分に一緒に過ごす事のできる環境整備にも努めていきたい。利用者本人が自分の存在や人の存在を感じることができるような援助のできる環境でありたい。

・畑などでとれた作物に季節を感じながら、手作りの食事を個々の力に合わせて提供していきたい。介護者の判断で決めつけずいろいろな献立を提供し食の可能性を広げていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当事業所は、事業所前の畑で季節の様々な野菜を栽培し利用者も一緒に収穫を楽しんでいる。

・自治会に加入し地域の一員として総会や奉仕活動に参加しており、住民と交流をしている。月2回は公民館で住民とサロンを運営し、住民から介護や健康の相談を受けるなど、事業所の特色を活かし地域貢献に取り組んでいる。

・利用者がこれまで営んできた生活や習慣を継続し、自分のペースでいたいことをしたり、できない部分を職員が支援することで、利用者に達成感や自信を感じてもらえるケアに取り組んでいる。

・管理者は、調理担当職員の配置を行い、職員の負担軽減とケアに集中できる環境を整備すると共に、職員の資格取得や研修受講を支援しサービス向上に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	利用者の方々の自律の回復が出来る様に援助している。自律の回復が無ければ心からの笑顔は現れないと考えている。	見直した理念を、事務室に掲示しパンフレットにも掲載している。ミーティング時に、理念に沿ったケアを実践しているかどうか話し合い、振り返っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、地域サロンに職員が参加したり、回覧板での活動利用、清掃活動、ゴミ袋の記名の徹底等日常的に事業所が参加している。また、総会等への参加もしている。	自治会に加入し、総会や奉仕活動に地域の一員として参加している。公民館で月2回、住民とサロンを開催し、介護関係や健康相談を受けている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域サロン時に介護保険制度の利用の仕方や介護者家族の相談を受け助言する等を実施している。また、運営推進委員会で困難事例等の学習や認知症事例についての学習をし共有している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	認知症の進行に伴って起こってくる、周辺症状への認知症の方々のコーピングの仕組みや、職員の取り組みなどについて発表して、理解しにくい部分を顕かに出来る様に努力している	運営推進会議は定期的開催し、外部評価やヒヤリハットを含めた報告と意見交換を行ない、認知症に関する情報も発信している。避難について行政等からの情報を得る機会であり、事業所の災害対策に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	困難事例などの場合など、市町村に意見を求めたり、相談をしたりしている。利用者のニーズは多様化しており、グループホームでは対応困難な場合など特に相談をしている（医療ニーズが多い）	市の担当者とは、電話や出向いて医療ニーズの受け入れ等、困難事例について良く相談し連携を図っている。生活保護担当者とも同様に協力関係を築くように努めている。市主催の研修会に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	緊急な場合は玄関施錠をする場合も考えているが、現在は施錠はせず、代替え方法を職員で検討している。外で過ごしたい利用者には施錠などして出れない様な対策ではなく、自由に行動できるが職員が意識づけをして、居場所を認識できている。毎月委員会を実施。	指針が有り、委員会及び研修会をミーティング時に毎月実施している。研修会では、事例を挙げて薬剤や言葉使いについて話し合っている。玄関の施錠はせず、利用者の動向を常に把握できるように、職員の連携と目配りを密にしており、近隣住民の目配りや連絡等の協力もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と共に虐待ではないのかという意識を持って、検討する機会を設けている。認知症でコーピングによる周辺症状が出現した場合等、対応が困難になり放置されない様に注意を払い、理解し防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度について学ぶ機会がある。特に金銭については難しく家族が適切な判断ができない状態の場合など、活用に至るまでがとても困難だという事を実感した。金銭管理の支援を受けている方の支援も行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の際は、利用解除になる理由、利用料金の説明、看取りの対象、喫煙や飲酒、病院受診、利用者の生活に伴う内容は詳しく説明し、納得を得て入居契約を実施している</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用料の支払い時に毎回管理者がご家族及び本人と語る時間を持ちやすい為、その際に、必要な要望等は伺えることが多い。最近では理容業者の選定について要望があった。</p>	<p>利用者には、日常の会話で意見等を聞いている。家族には、運営推進会議で意見を聞いたり、面会時に要望等を聞いている。個々に似合った髪カットの要望があり、職員が同席して美容師へ希望を伝えるようにしている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>随時、職員に説明する又は聴く等の時間を設け、検討し応答している。職員からの疑問や相談が出てきた場合は、管理者が確実な対応に努めている。</p>	<p>管理者は、日頃の業務の中で意見を個別に聞いたり、ミーティング時に提案等を出してもらっている。職員の提案として、ケア・業務内容の統一や見直しに反映している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>今年は年休取得等定められた事に従い、皆が取得できる様に配慮している。また、介護福祉士習得の為の支援や気かけなどに対しては管理者が言葉かけをして、相談できる環境づくりに努めている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>対人援助研修を5年継続し、会話記録を通して、実例を実感しながらトレーニングしている。専門職になれる様に、それぞれに研修を勧めている。また、年齢にかかわらず介護福祉士の取得を勧めている</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>始良市内のグループホーム及び介護事業者、病院等のネットワークを図り、特に薬剤などは病院等と連携を図り質の向上に努めている。例えば、新しい処方薬であれば、他の薬剤と相乗効果等の情報を受け、最適の時間に服用する</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	援助者にとっての関係の力という事には重点をおいている。認知症の方々が苦しんでおられることを語っていただける様な援助的コミュニケーションを図っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事、不安や要望が十分に語られる様に、その関係作りに努めている。私達介護者の体験ではなく、ご家族が、十分に語っていただける様な、援助的コミュニケーションに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急性があるようであれば、すぐに入居困難な場合が多いので、他の事業者の紹介や、利用可能なサービスの説明等に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場ではある。長年、生きてこられた方々である。利用者の生活を大切に、敬い、できない部分を支えあうという関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の時などにその時の本人の困りごとや家族の困りごとなど伺い、情報提供し一緒に考えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の生活の中で家族や友人等のつながりを断ち切ることなく、面会や外出などし易い環境作りをしている。自室で楽しめる様な雰囲気作りをしている。お茶等の提供もしている。	家族や友人の面会時は、居室でお茶を飲みながらゆっくりしてもらっている。家族と受診や配偶者の見舞い・外食・ドライブ・自宅訪問等に出かける等、これまでの関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	環境作りへの配慮をしている。特に居場所作りに配慮が必要である。孤立しないように言葉かけや支援を行っている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族から相談を受ける事や何か起こった場合は特に相談を受け対応している。必要なサービスの検討をし関係が継続できる様に支援している。看取り後の家族に対しても電話等の対応を継続している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	最初は家族や本人の過ごし方の情報から思いや意向について検討している場合が多いが、入居して徐々に本人の意向や暮らしの希望が本人本位なのか検討している	日常の会話で本人の思いを把握するように努めており、面会後の家族に声を掛けて利用者の様子や話を聞く等、家族からの情報も参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居に際して又は入居後も面会時等にご家族や友人などから、又は介護支援専門員、医師等から馴染みの暮らし方や生活環境、サービスの利用状況の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や支援記録、ミーティング等により、また、日常生活の様子から過ごし方や心身の状態、有する力の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の情報や現在の状況を話し合い、本人の意向を基に介護計画を作成している。本人や家族、介護職員、医師などの意見も参考にし、アイデアを反映し現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員で担当者会議を実施し、ミーティング時に出された職員の意見を入れ、医師の意見も参考に介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月に1回及び必要時に実施し、1年毎または状況変化等の必要時に、計画を見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎月のミーティングや、緊急に介護計画の見直しが必要な場合はミニカンファレンス等で職員間の情報共有をし見直しに活かしている</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>家族がいない人等の金銭管理以外の全てについて、生活していくための手続きを代行、買い物や兄弟と連絡が取れる様な支援をしている。たばこや飲酒などの嗜好品も許可ができれば適度に対応している</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域がグループホームの存在を知っており、利用者が散歩などや外出の際は、言葉かけ等の関係ができています。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>在宅でのかかりつけ医を継続し主治医から納得のいく説明を本人や家族にさせていただく様に連携している。また、救急の事態にはご家族へ報告し適切に治療が受けられる様な支援をしている</p>	<p>入居前の主治医を継続し、受診は、家族の協力も得ながら事業所で支援している。訪問看護師との医療連携による週1回の健康チェックや緊急時の連絡等で、適切な医療が受けられるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携で毎週訪問看護師が健康チェックに訪問し、常々の状態の把握に努めまた、顔見知りの関係になっている。体調の変化や気づきを主治医に相談し助言などを得ることができる。看護師不在時は訪問看護師が緊急時対応をする</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院や通院が必要になった場合、家族と、医師の情報交換を十分に行い、また、治療も受けられる様な助言や援助を行っている。主治医や病院との関係作りにも常々努めている</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>主治医との連携を図り、終末期の場合早い段階で主治医に家族への説明を十分にさせていただき、判断をし、また、最後まで家族や利用者はどうしていきたいか話し合い、意向確認をおこなう。</p>	<p>入居時に、指針で説明し同意書を得られている。重度化等の場合、管理者が同席して主治医から家族に説明してもらい、家族の意向を確認しながら、訪問診療・訪問看護と連携して支援に取り組んでいる。看取りの事例がある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時、事故発生時の連絡体制を徹底し、初期対応が適切に出来る様に指示、助言を行う体制をとっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災など非難を要する事態になった場合地域住民に協力を得られる様な連絡体制がある。</p>	<p>年3回の避難訓練を夜間想定で実施し、消防署の立ち会いが1回ある。消防団の参加協力があり、緊急通報装置に住民の登録もある。水・アルファ米・インスタント食品・カセットコンロの備蓄がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できなくなったことを残念に思ったり、失敗で自尊心を損ねない様に、本人の言葉や行動を尊重しながら援助している	研修を実施し、入室時は声掛している。排泄介助時や失敗時は羞恥心に配慮してさりげない対応をしている。申し送りは利用者の居ない所で行い、パソコンはスクリーンセーバーをかけてプライバシーを確保している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや希望を語りを促がし本人自身で判断し決定出来る様に支援をしている。そうしやすいように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりの生活を優先できる様に起床時間などによって日課の内容など希望を優先している。職員の都合では判断しない様に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者の習慣によって違うが、洋服を季節らしく配慮したり、髪形を整える、自分自身で洗顔ができる、化粧が出来る様に配慮をする。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえを一緒に行う事が主。利用者の力が高齢化、認知症の重度化に伴いできにくくなっている。本人ができる準備や片付けをしている。食事終了の際に食器を重ねるや箸を揃える等。	献立は旬のものを使い、調理専門職員が作成している。下ごしらえや片付けを利用者も一緒に行い、刻みや軟らか煮の食事を個々に摂っている。行事食や誕生日の特別メニュー・弁当持参の遠足の楽しみもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は10時と15時に食事以外では補足している。1日のおおよその水分量は把握し不足の場合は、勧めている。また、食事も必要量を確認し、摂食できる様に量や形態、種類の検討をその都度行う。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的にはそれぞれが移動されるのを介助し、磨き終わった際に必要であれば一緒にケアをしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意便意がある場合においてはご本人が行きたい時にトイレに行けるように援助している。夜間はポータブルトイレを準備して排泄を行う方もおり、その際は音により訪室し援助している。オムツ使用の検討もしている	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握している。昼間はトイレでの排泄を基本に、本人ができない所を支援している。リハビリパンツや尿取りパットを必要に応じて使用し、夜間は、ポータブルトイレの利用もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適切な便秘への対策ができているのか、主治医と適切に検討し、援助している。睡眠や食事量等も配慮に入れながら、腹圧がかからないのか、運動不足なのか、水分不足なのか検討を行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	14時から1日おきの入浴になっている。また、排泄の失敗が起こった場合などはシャワー浴等を行っている。入浴を拒否した場合、無理やり実施するのではなく時間をずらして対応する等の工夫をしている	隔日の入浴を午後の時間帯で実施し、必要時は2人介助で対応している。排泄失敗時はシャワー浴で保清に努めている。嫌がる場合は、無理強いせず、順番を変えたり翌日に入浴を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくりとした休息や睡眠には援助出来る様に配慮している。シーツや布団など適切に使用できているか確認を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ミーティングやその時その時に新しい薬などの注意点など十分に説明をし、援助している。薬剤服用と身体の変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	晩酌を毎日している利用者がある。読書好きの利用者があり、本の貸し出しをしている。ちり紙を折る、新聞を折る、野菜の下ごしらえをする、洗濯物をたたみ等その時できる事を一緒に実施		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的には、ひとりの人が毎日何回でも庭に出て草取りや畑に出かける。地域の支援が有り、道路に出でおられる様な場合は、電話等で連絡をいただける	日常的には、庭での散歩や日光浴・畑への散歩などをしており、年間行事で花見やバス遠足に出かけている。家族と受診や配偶者の見舞い・外食・自宅訪問・ドライブ等に出かける利用者もあり、できるだけ出かけられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>預り金として1万円以内のこずかいを持ち、受診等の際に嗜好品などの購入をしたり、お茶を飲んだりしている。家族が無い場合などは下着の購入や服の購入など、季節ごとに配慮している</p>			
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人が希望すればスピーカーホンなどを利用し電話をする。電話を希望する場合、電話をしたという行為だけで落ち着かれる場合が多い。</p>			
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>それぞれが不快に感じない様に居心地よく過ごせる様に配慮している。また、季節の花を飾る。畑などの収穫品を調理する等、収穫品を見せながら、季節の話題をする。</p>	<p>清潔で明るいリビングは、季節感のある手作り作品を壁に飾り、窓からの風景と共に室内でも季節を感じられるようにしている。廊下には、行事の写真が飾られ、家族にも楽しんでもらえるようにしている。利用者がくつろげるように座席の配置を工夫している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	よく話相手になる人等、座席等の工夫をしている。話題の提供や新聞や本、雑誌の提供等をし、ひとりで過ごす又は、共通の話題で談話する等の環境づくりをしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族が来られて主体的に使用していただける様説明している。孫の写真や近い方々の写真、思い出の品等、想いだせなくなる事もあるが、無くすることなく環境として置く等の工夫をしている	ベッドやタンス・椅子を備えた居室からも、畑や山を眺められる。本人の好みや必要に応じて、テレビや衣装ハンガー・化粧品等を持ち込んだり写真等を飾って、本人が落ち着いて過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、洗面所など手すり等を利用して、それぞれが自分で自立した生活が送れる様に工夫している。ベッドの高さ等起立しやすい高さの検討、座位が盗りしやすい高さの検討、食事時誤嚥が起こりにくい姿勢の検討をしている		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない